

令和5年10月2日

狛江市教育委員会教育部
公民館長 浅井 信治 様

狛江市立公民館運営審議会
委員長 斎藤 謙一

狛江市立公民館事業評価の実施について (答申)

令和5年4月11日付け狛教教公発第000012号で狛江市教育委員会教育部公民館長から諮問を受けました標題の件につきまして、別紙のとおり答申いたします。



公民館事業評価シート

事業名		子ども・若者事業（単発講座）			
予算	歳入予算（円）	歳入実績（円）	歳出予算（円）	歳出実績（円）	
平成3年度			報償費354,600 需用費160,000	報償費179,900 需用費102,181	
令和4年度			報償費226,800 需用費100,000	報償費157,000 需用費3,124	
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則			
	市の基本計画	狛江市前期基本計画 まちの姿6「生涯を通して学び、歴史が身近に感じられるまち」 施策6-①「地域における学びの充実」方向性2「生涯を通じた学びの実現」 第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針（4）生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり「地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。」			
事業目的	身近な題材をとりあげ、ものを作り、遊び、学びの中で喜び創造を高め、学校、年齢をこえた仲間づくり。青年男女を対象に楽手と仲間づくりをする。		持続可能な開発目標（SDGs）		
事業内容	開催頻度	7回実施			
	新規・継続	継続	実施主体	市	
	実施対象	市民	参加者数	延84人	
事業評価 ＜評価視点＞	評価項目	評価理由			評価
	＜周知＞ 市民に周知されているか	▼講座によってばらつきはあるものの、全体を通しては、約6割の方に参加いただくことができました。			公民館 B 公運審 B
					全体 B
	＜環境＞ 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面等は適切であるか	▼コロナの感染予防として、検温や消毒の徹底を行った。 ▼講師とも打合せを密に行い、人員や設備の面からも不足なく、すべての講座を無事に終了できた。			公民館 B 公運審 A
					全体 A
	＜満足度＞ 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	▼事業全体を通して、「大変良かった」、「良かった」の回答を9割以上のアンケート回答者からいただくことができたので、大きな満足度を参加者へ提供できたと言える。			公民館 A 公運審 A
			全体 A		
＜達成度＞ 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	▼参加者も一定数確保できていることから、「現役・将来世代の継承」の実現に寄与できたと言える。 ▼テレビ番組制作の裏側や、ミュージカルの体験等、学校では学ぶことができない講座を提供できた。			公民館 B 公運審 B	
				全体 B	
＜企画・計画性＞ 実施するにあたって企画を深められたか 計画的に実施することができたか	▼公民館全体というよりは、職員が個別に講座を検討、実施している。 ▼講座を実施するにあたっての目的や意図が明確に定められていない。			公民館 C 公運審 B	
				全体 B	
今後の課題	▼小・中学生を対象とした講座だけでなく、親子で参加できる講座や高校生・大学生向けの講座等、対象者の全体のバランスを見ながら増やす必要がある。 ▼参加率が低い講座もあるため、夜間での実施や優れたキャッチコピーの作成等、講座の時間帯や周知方法に工夫を加える必要がある。また、子ども・若者のニーズを調査し、講座に活かせるとなお良い。 ▼年間スケジュールを立てて、事業全体のバランスを見ながら、講座を決定する必要がある。また、講座を決定するにあたっては、その目的や対象を明確にして、企画・運営に取り組む必要がある。				
総合評価	▼市民協働や官学協働、官民協働といった様々な形式で新しい講座を実施できているのは高く評価できる。 ▼児童館や学校等といった他の公共施設ではあまり提供できない学びや時間を、公民館ができるよう意識いただきたい。 ▼本事業に参加した子ども・若者は、大人になってからも公民館に慣れ親しむ可能性がある。公民館の担い手の継承ができるよう引き続き注力いただきたい。				

公民館事業評価シート

事業名		西河原映画会			
予算	歳入予算(円)	歳入実績(円)	歳出予算(円)	歳出実績(円)	
平成3年度			使用料及び賃借料 689,000	使用料及び賃借料 633,498	
令和4年度			使用料及び賃借料 689,000	使用料及び賃借料 491,498	
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則			
	市の基本計画	狛江市前期基本計画 まちの姿6「生涯を通して学び、歴史が身近に感じられるまち」 施策6-②「芸術文化・スポーツの振興」方向性1「芸術文化に触れる機会の充実」 第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針(4)生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり「地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。」			
事業目的	市民に芸術文化を享受する機会を提供する		持続可能な開発目標 (SDGs)		
事業内容	開催頻度	年間5回(奇数月に1回、土曜日開催) ※3月はいべんと西河原・中央公民館のつどい合同開催により中止			
	新規・継続	継続	実施主体	市	
	実施対象	市民	参加者数	延303人	
事業評価 ＜評価視点＞	評価項目	評価理由		評価	
	＜周知＞ 市民に周知されているか	約2週間前に広報こまへ掲載し、チラシ・ポスターを公民館、地域・地区センターに配架し、またSNS(ツイッター・フェイスブック)でも周知している。上映作品によってばらつきはあるが、コロナ禍でも50名以上の来場者数は確保できている。		公民館 B	公運審 A
				全体 A	
	＜環境＞ 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面等は適切であるか	感染症対策として、2名体制で受付を行い、消毒、検温、整理券の回収(氏名と連絡先を記載)を行った。これらの取り組みにより、新型コロナの感染者を出さずに、トラブルなく事業を終えることができた。		公民館 B	公運審 B
				全体 B	
	＜満足度＞ 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	来場者にアンケートをとっていないため、正確な満足度が分からない。ただ、参加者の中には、帰りに「とても面白かった」「次回も楽しみにしている」といった声をいただいたこともある。		公民館 C	公運審 C
全体 C					
＜達成度＞ 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	映画を選定する際は、娯楽としての面白さだけではなく社会教育の視点に立って、家族の大切さやLGBT等の社会的なテーマに沿った作品も選定するよう意識している。		公民館 B	公運審 B	
			全体 B		
＜芸術文化＞ 芸術文化に触れるきっかけとなったか	「次回の映画会はいつか」と問い合わせを受けることもよくあり、来場者のリピーターもいることから、定期的に芸術文化に触れる機会を提供できていると言える。		公民館 B	公運審 A	
			全体 A		
今後の課題	▼＜周知＞については、目標となる参加者数を設定し、より客観的な評価が必要である。 ▼＜満足度＞についても、来場者へアンケートを実施し、より客観的な評価が必要である。 ▼費用対効果の観点から、令和5年度から、図書館流通センターが実施している「みんなでシネマ」(年間6万円の費用で、西河原図書室の映画作品を上映できる)を活用することとなった。従来の質を保ちながら、芸術文化の機会を市民に提供できるよう注力する必要がある。 ▼上映する目的や意図を公民館として検討してから、作品の選定に取り組む必要がある。				
総合評価	▼本事業を通じて、市民に対して芸術文化に触れる機会を定期的に提供できていると言える。 ▼参加者に、純粹に映画を楽しんでもらうという視点を大切にいただきたい。 ▼参加者に何を感じてほしいのか等の目的や意図を公民館として設定してから、上映作品の選定に取り組む視点も大切にいただきたい。 ▼＜周知＞に係る客観的な評価を行うため、参加者数の目標値を設定していただき、また＜満足度＞についてもアンケートを導入し、より客観的な評価ができるような体制づくりに取り組んでいただきたい。				

公民館事業評価シート

事業名		パソコン室一般開放				
予算	歳入予算 (円)	歳入実績 (円)	歳出予算 (円)	歳出実績 (円)		
平成3年度			報償費 34,650	報償費 28,872		
令和4年度			報償費 34,650	報償費 29,532		
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則				
	市の基本計画	狛江市前期基本計画 まちの姿6「生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」 施策6-①「地域における学びの充実」方向性2「生涯を通じた学びの実現」 第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針（4）生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり「地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。」				
事業目的	デジタル化を推進するとともに、参加者が互いに教え合うことで、個々のスキルアップとパソコン室を通じた仲間づくりにつなげる。		持続可能な開発目標 (SDGs)			
事業内容	開催頻度	年6回（10～3月の毎月第4火曜日）				
	新規・継続	継続	実施主体	市		
	実施対象	市民	参加者数	延17人		
事業評価 ＜評価視点＞	評価項目	評価理由		評価		
	＜企画・計画性＞ 実施するにあたって企画を深められたか 計画的に実施することができたか	▼例年同様のパソコン一般開放の事業のあり方に疑問を残しつつも、従来どおりの実施となっている。		公民館	公運審	全体
				C	C	
	＜周知＞ 市民に周知されているか	▼チラシやポスター等を作成せず、「広報こまえ」のみの最低限の周知となっている。		公民館	公運審	全体
				B	C	
	＜実施・運営＞ 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面等は適切であるか	▼PC10台に対し、参加者が1～4名、講師1名、補助2名（西河原パソコン室使用者協議会会員）が平均的な人数であり、丁寧に教えることができています。 ▼事業終了時は毎回、機器類・机椅子等の消毒を行いました。		公民館	公運審	全体
B				B		
＜満足度＞ 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	▼アンケートの結果、参加者全員に「良かった・大変良かった」との回答をいただいた。感想も「不明の点を気軽に尋ねる場があると助かる」「今まで分からなかったところを教えて頂き、大変助かった」「この様な教室は未経験だったが、大変良い制度だと思った」等の内容で、利用者のニーズに答えられている。		公民館	公運審	全体	
			A	B		
＜達成度＞ 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	▼パソコンの必要な知識を伝えることで、デジタル化の推進の一助となっている。一方、主流であるスマホのサポート体制については、まだ構築できていない。 ▼参加者の中には、西河原パソコン室使用者協議会に入会する方も見られ、仲間づくりにつながっていると考えられる。		公民館	公運審	全体	
			B	C		
今後の課題	▼パソコン室の有効活用を目的に、協力依頼を始めたパソコン室使用者協議会だが、結成当初は100名以上いたものの、高齢化等に理由により、現在は約半分の人数となっている。加えて、スマホが台頭しパソコンの利用率が減少している現状を踏まえ、今後の事業のあり方について検討する必要がある。 ▼「一般開放」だけでなく、ワードやエクセル、スマホといった実施内容をもう少し具体化し、参加者数を増やす必要がある。ただ、その際はシルバー人材センターで開催している「パソコン教室」との差別化が図られるよう工夫する必要がある。 ▼周知の際はチラシやポスターを作成し、市民の興味を引くような副題を設ける等の工夫を施す必要がある。					
総合評価	▼平成24年に審議会より答申した「情報学習事業パソコン室の利用について」を改めて確認していただき、問題点の把握と改善への取組みを実施していただきたい。 ▼令和6年度は市民センター改修に伴う中央公民館の休館により、西河原公民館の利用率が上がる見込みである。そういった中で、パソコン室の設置目的や有効活用は重要なテーマとなるので、できるだけ改善に向けて取り組んでいただきたい。					

公民館事業評価シート

事業名		夏休み子ども・中高生スペース		
予算	歳入予算(円)	歳入実績(円)	歳出予算(円)	歳出実績(円)
平成3年度			報償費312,000 需用費 48,000 委託料141,000	報償費256,600 需用費 14,970 委託料110,338
令和4年度			報償費369,000 需用費 53,000 委託料123,000	報償費 24,000 需用費 57,502 委託料 57,200
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則		
	市の基本計画	狛江市前期基本計画 まちの姿6「生涯を通して学び、歴史が身近に感じられるまち」 施策6-①「地域における学びの充実」方向性1「学びの環境づくり」 第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針(4)生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり「地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。」		
事業目的	学校教育と社会教育の連携を強化するため、社会教育の現場を所管する公民館においても、夏期一斉閉庁期間中の「子どもの居場所づくり」を行うとともに、子どもの教養や想像力を養う事業を展開する。		持続可能な開発目標 (SDGs)	
事業内容	開催頻度	年に1回(8月8日~13日)		
	新規・継続	継続	実施主体	市
	実施対象	市民	参加者数	延340人
事業評価 ＜評価視点＞	評価項目	評価理由		評価
	＜企画・計画性＞ 実施するにあたって企画を深められたか 計画的に実施することができたか	▼従来の取り組みに加えて、令和4年度は、世界の恒久平和の願いを含め、ウクライナに関する協働イベントを企画した。		公民館 A 公運審 A
				全体 A
	＜周知＞ 市民に周知されているか	▼広報こまえ、教育委員会ホームページに掲載のほか、市内各小中学校へ家庭数分のチラシを配付した。高校生の参加者が少なく、周知方法等の検討が必要である。 ▼事前申込制の講座では、全ての講座で定員を超える申し込みがあった。		公民館 B 公運審 B
				全体 B
	＜実施・運営＞ 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面等は適切であるか	▼学習や学びのフリースペースでは、各団体の協力を得ながら、児童・生徒の見守りを行い、安全な事業の実施に努めた。 ▼コロナ禍での実施となったため、各会場で手指の消毒、検温、名簿記載のほか、子ども食堂では簡易パーテーションを設置するなど、感染症対策を徹底した。		公民館 B 公運審 B
		全体 B		
＜満足度＞ 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	▼子ども・親子向けの体験教室のアンケートでは、9割以上の参加者から「大変良かった」「良かった」との回答をいただいた。		公民館 A 公運審 A	
			全体 A	
＜達成度＞ 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	▼学校の一斉閉庁期間において、またコロナ禍において、多様な講座やフリースペースを実施し、子どもたちの居場所を提供できた。		公民館 A 公運審 B	
			全体 B	
今後の課題	▼遊びのフリースペースは小学生のみが利用しているため、中高生の利用を促すとともに、小中高生の交流という視点を取り入れて事業展開を図る必要がある。 ▼高校生の参加者を本格的に増やしたい場合は、高校生を対象とした講座等を検討する必要がある。 ▼学びのフリースペースにおいて、自習だけではなく、他者から教わる空間も別途用意できないかなど新たな取組を検討しても良い。 ▼参加者向けのアンケートについて、フォーマットを統一するとともに、次回の改善点を把握できるような一歩踏み込んだ質問項目を加える必要がある。			
総合評価	▼事業の企画や計画性について、事業全体を通じて俯瞰的に検討できるようにしていただきたい。 ▼ウクライナのチャリティイベントや、様々な関係機関と連携した講座は評価できる。こういった新しい取り組みについては、今後も継続していただきたい。 ▼高校生を対象とした場合の需要と供給について、改めて考えていただきたい。 ▼「働き方改革」が求められている時代に、狛江市立学校の夏季一斉閉庁期間中に実施することについて、改めて本事業の目的やその必要性について、公民館としても検討していただきたい。			